

授業研究

## メディア多様化時代の大学生にとってのテレビについての考察 —「映像メディア論」受講生のレポートをもとに分析する—

間島貞幸

【要旨】 メディア多様化時代の大学生にとってテレビはどのような存在なのか、「映像メディア論」の受講生のレポートをもとに考察する。

【キーワード】 テレビ試聴 テレビ離れ 映像メディア ネット試聴

### 1. はじめに

筆者は、2020年度秋学期に初めて、『映像メディア論』を担当した。本講義は、映像メディア—映画、テレビ、インターネット配信—の機能と特性を明らかにし、それぞれが連携し、融合することで生み出される新たなサービスの可能性について考察することを目的としている。

テレビのディレクターとしておよそ20年間番組制作に携わってきた筆者は、2009年4月、駿河台大学メディア情報学部の実務家教員として着任した。当時からすでに日本人のテレビ離れが進んでいた。平成23年版 情報通信白書によると、特に若年層のテレビ離れが顕著で、10代・20代の1日当たりのテレビ試聴時間は、2005年から2010年の5年間で3割も減少した。それでも着任してから4～5年は、授業中にテレビ番組についての話をすると、大いに盛り上がったものだ。しかし、ここ数年、テレビが共通の話題として成り立たなくなってしまった。若者はテレビよりインターネットの利用時間が圧倒的に増えて、話題になっていたテレビ番組を見ない人が多くなったためである。

「私自身が小学校の頃（2006～2012）は、学校

で友だちと、昨日のテレビ番組の話題を話していたが、高校生の頃（2015～2018）は、SNSの普及が進んでいて、SNSで話題の人やYouTuberの話をしている友だちが多かった。時代の流れとともに、SNSが普及したことによるもので、テレビが好きな私としては、少し寂しかった。」これは、『映像メディア論』を受講する学生（3年生）のレポートの一部である。いかにも新しいもの好きな若者たちの様子がよくわかる。

映像メディアについて向き合っているこのタイミングで、あらためて、大学生にとってテレビはどのような存在なのか、知っておくことは今後の授業設計に有効なのではないかと考えた。

本研究では、映像メディアのそれぞれの機能と特性について学ぶ受講生114人のテレビの長所に関するレポートの一部を紹介し、メディア多様化時代における大学生にとってのテレビはどのような存在なのか、について考察する。

### 2. テレビとインターネット配信の機能と特性

ここであらためて、テキストとして使用している「映像メディア論—映画からテレビへ、そして、インターネットへ」（辻泰明 著 2016年）を参考にテレビとインターネット配信の機能と特性につ

いて比較してみる。

インターネット配信は、テレビをコンテンツとして包含するが、テレビにない特性である双方向性（最近ではテレビの中にも一部あるが）、検索性を併せ持つ。

インターネット配信 ↑ (含む)						
新聞	雑誌	テレビ	ビデオオンデマンド	動画投稿	ライブストリーミング	
↑ (テレビに含む)						
ラジオ	映画	災害中継	スポーツ中継	コンサート実況	生放送のニュース	生放送の討論

図1 映像メディアの階層とコンテンツの関係

テレビでは、決まった時刻に決まった番組が送り手の側から提供されるのに対して、ビデオオンデマンドは、好きな時に受け手の側が選んで視聴することができる。

インターネット配信における視聴数の多寡は、テレビ放送における視聴率の高低と異なる場合がある。

テレビにおける送り手と受け手の関係は送り手が情報を一方的に受け手に送る一方通行であるのに対し、インターネット配信においては受け手が取りにきた情報を送り手が送り返すという双方向になっている。

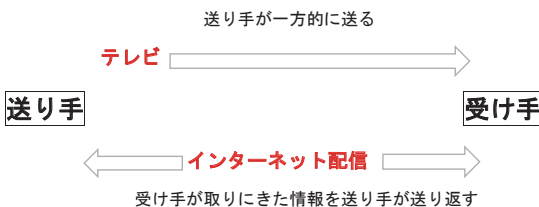


図2 テレビとインターネット配信の方向性

テレビは一方通行、インターネット配信は双方向という方向性の違いは、送り手と受け手の関係性にも違いをもたらす。

テレビは、電波を利用して送り手が一つのコンテンツを不特定多数の受け手に向けて送る。よって送り手と受け手は、1対多の関係にある。一方、インターネット配信は、通信回線によって送り手

と受け手が直接結ばれているため、送り手は、一つずつのコンテンツを一人ずつの受け手に送る。よって、送り手と受け手は、1対1の関係にある。この、それぞれ1対1の関係で結ばれた送り手と受け手は、インターネット上において多数存在し得るため、全体を俯瞰すれば、多数の送り手と受け手が、多対多で結ばれた関係にあるともいえる。

テレビとインターネット配信を、方向性、送り手と受け手の関係、反響の尺度によって比較すると表1のようになる。

表1 テレビとインターネット配信の比較

	方向性	送り手と受け手	反響の尺度
テレビ	一方通行	1対多	視聴率
インターネット配信	双方向	1対1 (多対多)	視聴数

### 3. 若者とメディアの現状

『映像メディア論』は、3年次以上が対象である。そのモデルとなる2000年生まれの学生とメディア環境の変化を当時の年齢と照らし合わせてみると以下の通りである。

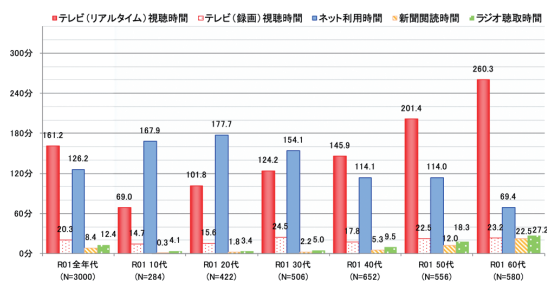
- ・2006年（6歳）動画共有サイト「ニコニコ動画」サービス開始
- ・2007年（7歳）動画共有サービス「YouTube」日本語版サービスを開始
- ・2008年（8歳）iPhoneなどスマートフォンが日本で販売開始
- ・2012年（12歳）テレビがデジタル放送へ完全移行
- ・2015年（15歳）スマートフォンなどでテレビ番組の動画を配信する「TVer」サービスを開始

今の大学生が、メディア環境の変化によりテレビ視聴の多様性、自在性が高まる中で育ってきたといえるのではないか。その中で平日のメディア

の平均視聴時間が、10代のテレビ(リアルタイム) 69.0分、ネット169.7分、20代のテレビ(リアルタイム) 101.8分、ネット177.7分とネットの視聴時間がテレビ(リアルタイム)の視聴時間を大きく上回っているのがわかる(表2)。

このような状況の中で、大学生は、一体テレビの長所をどのように考えているのかだろうか。

表2 【令和元年度】[平日] 主なメディアの平均利用時間(全年代・年代別)  
令和元年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書より



#### 4. 大学生が考えるテレビの長所

『映像メディア論』の受講生が考えるテレビの長所についてのレポートの一部を以下に紹介する。

- ・インターネット配信と違うテレビの長所はみんなで楽しみやすいことだと思います。インターネット配信はそれぞれの趣味嗜好によってコンテンツが細分化されていますが、テレビは良くも悪くも万人受けしやすく分かりやすいコンテンツが多いように感じます。そのため、家族や友達などの不特定多数の人といるときに気軽に見られるのではないかと思います。
- ・テレビの長所は、信頼性が比較的高い、映像や音声を発信できる、速報性が高い。テレビは、自分だけでなく他の人とも一緒に見て情報をその場で共有できて、とても安心感があります。一番は災害時に即時に情報が入ることです。携帯でも Twitter などが災害時に便利であると

言われているが、いろんな人が情報を出してどれを信じて良いのか頭の中で混乱してしまう人もいるかもしれません。テレビは皆が見るもの、共通のものしか流れないのでそういう緊急時はテレビの方が良いと思います。あとは今、何が流行しているかなどもつかみやすいのでありがたいです。

- ・テレビは落ちた、と言われることが増えたが、そんな中でもテレビ局は前と変わらず、規制の中で、新しい企画に挑戦し、視聴者により良いコンテンツを提供しようとしている。時代に合わせ、独自にネット配信の媒体を作るなど、ネット配信とライバルでありながらも、共存出来ているところがテレビの長所であると考える。
- ・テレビはネットより早く情報が出てくるので、高齢者のようにテレビを通して情報を受信することに慣れている人が多いです。そして、多くのネットの番組は時々、品質も保証できません。
- ・インターネット配信よりも情報の伝達は早く、まさに速報スーパーなどは続報を待ってそのチャンネルにとどまり続けます。私の家ではチャンネルを持つ権限がほとんど祖母にあるため、バラエティー番組はお正月以外にはほとんど観ません。そのかわりNHKのニュースや宇宙について、日本の歴史、バス旅、園芸の番組をよく観ています。祖母がよく言っているのは、「私が昔に教科書で勉強してきたことより現代はとても進んでいて様々なことが分かってきている。その最新事情をテレビ番組で面白くて分かりやすい形にしてくれるから本当に凄い」ということです。テレビ番組で見て学ぶというのは自然と頭に入ってきます。また、動画配信ではテレビ番組よりしゃべりの間がなくテンポよく進んでいく編集が多いですが、テレビのほうはそれとは逆に、間があり、落ち着いて見られるのも長所の一つだと思いました。

- ・孤独感(特に一人暮らしの)を和らげてくれます。CDや本も好きなのですが、CDや本は孤独感が強い時はかえって逆効果です。「時間が流れていない」感じがして、閉塞感を覚えます。テレビは、点けっぱなしにしておくことで、閉じた部屋の中に「外界の風景」が入り込んで来たような感じを受けます。私の意図とは無関係に動き続ける映像は、時間の流れを感じさせてくれます。
- ・私のテレビのイメージとしては「手に届かない世界」という感覚があり、それを視聴し楽しむのが好きなのだと思う。インターネット配信もテレビと似たような要素はあるが1対1という距離が視聴者を面白くさせる反面、気軽に見ることができないのだと思う。
- ・テレビでのリアルタイム視聴を逃すと大体ネットにはもうネタバレが存在してしまいます。だから私は今でもテレビを視聴します。
- ・テレビの長所は信用できることが多いということです。ネットのニュースだといくらでも嘘の情報が転がっていますがテレビだと信用できる内容が流れてくるからです。テレビは地震が起きたとき緊急地震速報がテロップで流れ、誰もがその番組を見ていると情報を得ることができます。
- ・私は、月9ドラマは毎回見えています。これを見て、今日は月曜日だな、など曜日感覚を取り戻していたりします。本当に好きなドラマの場合、時間が決まっているからこそ、その番組が楽しみになったりします。
- ・たくさんの芸能人が出ていて、YouTubeよりお金がかかっているからか、内容もしっかりあるしプロが撮っているため動画が見やすい。
- ・私はスマホをいじっている時、作業をしている時はテレビをつけている。理由は単純作業をしている時は少しでも知識を得ようとクイズ番組やうんちくを紹介する番組などを見ている。  
また、ニュースを見て世の中の情報を取り入れようとしている。
- ・テレビの長所は自分が興味のない事柄でも新しく知識や世界を広げることができる場所だと思った。これは自分が興味のあるコンテンツだけを受け取るインターネット配信ではできないことだ。また、テレビの方が番組としてのクオリティーは高いと感じる。テロップの出し方や画面のデザインなどはプロフェッショナルが編集しているため完成度が高いものとなっている。
- ・その一日にあったようなことをニュースでは、アナウンサーがまとめて話してくれるので簡単に頭に入り、現在の日本の様子など知ることができます。
- ・放送時間がしっかりと区切られていることです。時間がしっかりと区切られていることでそれに合わせて行動できるし、放送内容がしっかりとまとめられるからです。
- ・テレビは家族などと楽しく笑い合える時間を過ごすために重要な役割を果たしていると思います。その時間帯に放送されているテレビ番組を1つ選ばなくてははいけません。どれが見たいか意見が分かれた時は大変ですが、生活する上で大切なコミュニケーションをとるきっかけの1つになっていると思います。
- ・スポーツ観戦やドラマなど、リアルタイムで放送されるテレビ番組において、SNSなどでネタバレなどの感想であふれているのでその時間に見ないと結末を知る可能性があるため、私はインターネット配信よりもテレビ番組を見ます。

- ・普段日常生活を送るなかで音が全くと不安だからというのがあります。音楽ではなく、人の声が流れ続けていると安心するので、BGM代わりにテレビを流し続けています。
- ・私はテレビを見ながら、それ以外のこともします。例えばSNSに見ているテレビ番組の感想を呟いたり、みんなでボードゲームをしたり、パソコンで課題をしながら横でテレビを流していることもあります。これはテレビ番組をテレビで見ているからできることで、パソコンやスマホでネット配信動画を見ている時にはできないと考えています。なぜなら私もスマホやパソコンのネットで動画を見ることがありますが、その時はいつもそれだけに集中しないと内容が全く入ってこないからです。テレビを見ている時には他のことをしながらでも自分の求めている内容は把握できます。それはテレビでいろいろな情報が絶えず流れているからだと考えます。そのため自分が見たい時はそちらに目と耳を傾け、そうでない時は他の作業をしながらラジオ感覚で情報を得ることで、自動的に休憩時間ができて、疲労が抑えられます。ネットの場合は自分で細かいところまで選んでしまっているため、ずっとそこに集中する必要があるのです。

また、テレビは家族との時間を作り出します。それぞれがスマホで違う動画を見ている時は、同じ部屋にいるのに孤独感が出て嫌な気持ちになります。しかし家族みんなでテレビを見ている時はその場で感想を言い合ったり、笑ったり、幸せな空間ができます。
- ・テレビの長所はまずYouTubeなどのインターネット上の配信サービスは良くも悪くも双方が繋がりを持ち距離が近いので私自身はその距離感が近いせいか視聴していても少し息苦しく感じ、純粋に楽しめないことがたまにあります。そのためテレビのような一方通行の配信方法は距離が遠く、疎外感があると感じる人もいます
- ・インターネット配信の方が1対1で発信されるため距離を近く感じられる。また、自分の意見をコメントやメッセージを送ることによって直に相手に届くことにより、より身近な存在に感じる所が利点であると考え。しかし、テレビは一方通行であり自分の声は直接相手に届かない。これが逆に「テレビの中の人」という雲の上の存在感を作り上げ、憧れ・尊敬を強く感じ惹きつけられ魅入るポイントだと考える。手が届きそうで近くに感じられるのも良い点だが、手に届かないものほど惹かれるものでありそれがテレビ越しで感じることができるのが見る理由だと感じた。
- ・私は新聞を読む習慣が無い。ネットの記事の文字だけでは自分は理解できていないと感じるところがある。テレビは知り得ない情報や理解を補足してくれる。例えば話題になっている海外のニュースの解説、政治問題について興味が無い私でも視聴すると図やパネルを用いてわかりやすく記事の説明をしてくれる。テレビは誰でも理解できるように言葉を噛み砕いてわかりやすくする。加えて、難しい言葉、聞き慣れない言葉についてはしっかり説明する。ネットは知らない言葉があっても受け取った人はニュアンスで勝手に理解してしまう。テレビはとても丁寧であると考え。誤った事実を視聴者に伝えない努力をしている。仮に誤った情報を放送した時にはその場で訂正を行う。素早い対応がある。災害などの情報もネットよりも早いところがテレビの長所であると考え。
- ・スポーツ観戦はネットだと有料なものが多いのでテレビだと民放などでは基本的には無料であ

るからである。また、近年ではコンプライアンスの基準が厳しくなってきたので、家族と一緒に見る際には安心して視聴できるから。

## 5. 考察

学生のレポートから、テレビは、家族や友達などの不特定多数の人といるときに気軽に見られる。信頼性が比較的高い、映像や音声を発信できる、速報性が高い。時代に合わせ、独自にネット配信の媒体を作るなど、ネット配信とライバルでありながらも、共存出来ている。話に間があり、落ち着いて見られる。孤独感(特に一人暮らしの)を和らげてくれる。曜日感覚を取り戻させてくれる。内容もしっかりあるし、プロが撮っている。ながら試聴して、時々必要な情報が手に入る。現在の日本の様子を知ることができる。放送時間がしっかりと区切られているため行動もしっかり合わせられる。生活する上で大切なコミュニケーションをとるきっかけの1つになっている。途中SNSなどでネタバレしないで見ることができる。音楽や人の声が、BGM代わりになり、落ち着く。テレビの距離感のほうが視聴者という立場に徹することが出来る。「テレビの中の人」という雲の上の存在感を作り上げ、憧れ・尊敬を強く感じ惹きつけられ魅入る。テレビは知り得ない情報や理解を補足してくれる、などの意見があった。

以前からテレビは受動的と言われているが、さまざまなメディアに触れてきた若者たちにとって、現在の生活の中でインターネット配信が最も身近な存在であるとはいえ、テレビとインターネット配信の特性をよく理解して、コミュニケーションの促進のために、一人暮らしや家族同居な

ど生活スタイルの変化に応じて、また地震などの緊急事態の発生時や、まとまった情報を必要とする場合、ドラマなど見たい番組のタイプに応じて、能動的にテレビを活用している実態がわかった。

## 6. あとがき

今回、テレビやインターネット配信に興味関心のある、「映像メディア論」の受講生に対し、テレビの長所について聞いてみた。どれもテレビに対する好意的な本音であると考ええる。しかし彼らはテレビの長所を理解しているものの、一部の学生を除いて実際に利用している時間が多いのは、検索性の高いインターネット配信である。

検索して自分が見て満足する動画を視聴するとさらに関連動画を勧められる。よほど主体的に利用しない限り、自分の嗜好にあった動画を延々と見続けることになる。その結果、娯楽の領域からなかなか脱しえない、というのが現状なのではないだろうか。

学生たちと接していて強く感じるのは視野の狭さである。関心があるのは、自身の生活、卒業後の進路についてが、ほとんどであろう。

視野を広げる方法の一つとして、テレビを主体的に活用することは有効だ。しかしそのテレビも、バラエティやドラマなど似たような番組が多い・放送するまで内容がわからない・自分の生活リズムの中でテレビの放送時間に合わせる事が難しいなど、現状、多くの難点があると言えよう。

今でもテレビを愛する筆者は、次年度の授業においてさらにテレビの魅力、有効性について伝えていきたい。

**Consideration about television for university students in the age of media diversification**

**-“Video Media Theory” Analyze based on student reports-**

**By MAJIMA Sadayuki**

**[Abstract]** We will consider what kind of existence television is for university students in the age of media diversification, based on the reports of students in “Video Media Theory”.

**[Key words]** Watching TV   Watching TV away   Video media   Watching the net